

普段着のままでも気軽に参加 できる親睦・交流の場として ますますの充実を



パンテックユニオンOB会「あいゆう会」
会長 井上 正

本日は、あいゆう会「秋のセミナー」に参加いただきありがとうございます。主催者を代表して一言ごあいさつを申し上げます。

パンテックユニオンのOB会であるこの「あいゆう会」は、「同じ釜の飯を食った」とも言える仲間が定年退職後も普段着のままでも気軽に参加できる親睦と交流を目的として1999年6月に結成されました。

第1条（名 称）

この会は、「パンテックユニオンOB会『あいゆう会』」といい、事務局をパンテックユニオン内におく。

第2条（目 的）

この会は、会員相互の親睦と交流を目的とする。

第3条（組 織）

この会は、原則としてパンテックユニオン会員籍で定年退職をされた方のうち、入会を希望する者でもって組織する。

パンテックユニオンOB会「あいゆう会」会則より抜粋

翌年の2000年1月には第1回定期総会を開催し、活動年度を1月1日から12月31日と定め具体的な諸活動をスタートさせました。

結成当初は約120名であった会員数も、現在では200名近くになり、今後の定年退職者数の予測からは、ここしばらく会員数は増加傾向を

たどるものと見込まれます。

このような中で「あいゆう会」の活動を順調に軌道に乗せることが出来たのは、ひとえにパンテックユニオンの役員ならびに会員のみなさまの様々なご支援によるものであるとこの場を借りて心から感謝申し上げます。

さて、私どもあいゆう会の活動もわずか2年ではありますが非常に充実した内容で行って行くことが出来ました。少し振り返りますと、初年度にはバス旅行として淡路島で開催されていました「淡路花博～ジャパンフローラ2000」を訪問し、研修会としては、神戸市のシルバーカレッジで開催された元プロ野球選手である村田兆治氏の講演会に参加しました。また会員から多くの希望があった播磨製作所の見学会も実施され見事に継承された後輩たちのもの作りの姿を間近に見ることもできました。



「ジャパンフローラ2000」での1コマ

2年目に入った今年の春には第2回バス旅行として、豊岡市の「こうのとりの郷公園」と但東町にある「日本・モンゴル民族博物館」の見学会を行いました。「こうのとりの郷公園」では折りしも地元の中学生在がトライアル・ウィークと称する社会実習を行っておりハンドマイクと原稿を持って一生懸命にこうのとりについての説明をしてくれた姿が今でも鮮明な記憶として残っています。また「日本・モンゴル民族博物館」では館長である金津匡伸氏が自ら説明をされ、参加者一人ひとりがモンゴルの文化や歴史について多いに見聞を広めることが出来たと言えます。

そして何よりもOBである私たちがうれしく思うことは、それぞれの行事に必ず青年部を中心とした現役の後輩たちが参加されて世代を越えた交流が図られることであります。

「普段着のままで気軽参加できるOB会」が本会設立の目的であったわけですが、現役の方々の支援をいただきながら所期の目的に沿いながら順調な滑り出しができたことを改めて感謝したいと思います。

本日は、あいゆう会「秋のセミナー」と題して、本年2月に竣工したたいへん立派な新本社ビルを会場としてお借りし開催しておりますが、セミナーに先だつて新本社ビルの見学会も行うことになっており楽しみにしているところです。

またセミナーそのものは、パンテックユニオンが取り組んでいる「ユニオン・オープンハウス」の一環として、神鋼労組組織内議員である宮本兵庫県議会議員の県政報告と兵庫県産業労働部の朝田参事による里山保全活動についての講演をしていただくことになっています。とくに里山保全

活動についての講演は、県民参加によるボランティアの力で「生命の源」とも言える森林の保護に取り組んでいくという内容であり、これからのあいゆう会の活動を考える上でひとつのヒントになるのではないかと私も期待しています。

最後に健康について少しお話しをして私のあいさつを締めくくりたいと思います。私たちは現在、定年後の「第二の人生」を歩んでいるわけですが、超高齢化社会とも言う「人生80年時代」を充実させるためには何よりも健康が第一になってくると思います。食生活に気をつけることももちろんであります。生活習慣病などの予防のためにも毎日少しでも運動をすることが不可欠であると思います。そんな中で最も手軽に取り組める方法として「ウォーキング」をお勧めしたいと思います。1日1万歩、距離にして約6kmとなります。1日約1時間半のウォーキングがコストのかからない一番手軽な健康維持法だと思います。今後、健康維持という観点からの活動についても取り組んでいきたいと考えていますので、その時にはみなさんのお知恵をお借りしたいと思います。

本日はここにお集まりのみなさんとともに有意義な1日を過ごしたいと考えていますので、最後までよろしく願いいたします。

以上

(文責：大野 公一)



日本・モンゴル民族博物館での集合写真